

Que Será, Será

VOL.79
2015
WINTER



インド・ブッダガヤ・菩提樹学園の子供たち



不安のない生活——(24)ミュンヘンの思い出 その2

医療法人 和楽会 理事長 貝谷久宣



ゲート学院でのドイツ語研修が終わると間もなく、家族がミュンヘンにやって来ることになっていった。留学生の面倒を事細かにみってくれる親切な研究者がいた。彼の名前はメーライン。イラク出身でミュンヘン大学医学部を卒業し、地元医師と結婚し、ドイツに帰化していた。彼は臨床神経病理学のそうそうたる研究者であり、後にミュンヘン大学医学部病理学教授になっている。彼が車を出してくれてリム空港まで家族を迎えに行った。妻は3歳の長女と2歳の長男を連れてたぐさんの荷物とともに到着した。女性一人だけで幼児を二人も連れての初めての海外旅行はさぞかし心細かっただろうと、この歳になって初めて妻の苦労を思いやることが出来るようになった。ミュンヘンはクリスマスも終わり、静かな街になっていた。荷物を解き、親子4人の安らかな生活が始まった。正月元旦は特に大きな行事はなく、時に爆竹がなるぐらいで、2日からは平常の勤務が始まった。マックス・プランク精神医学研究所での生活は単調なものであった。わたしは、1年間はベーターズ所長の主宰する臨床病理学を、2年目はクローツベルグ教授の率いる実験病理学を研鑽する予定になっていた。研究所の3階にはザンムルングと呼ばれる大きな大部屋があった。中央には10数人がミーティングでできる大きなテーブルがあり、壁側の棚には人脳の顕微鏡標本が数千症例整然と保管されていた。その大部屋の窓側は5、6の個室に仕切られており留学生に割り当てられていた。どの部屋にも大きな書斎と机の

不安のない生活—(24)ミュンヘンの思い出 その2



上には顕微鏡が常備されていた。個室のドアを出れば標本が山のようにあり、プロトコールからめざす病気の症例をいくらでも見ることが出来た。要するに、ザンムルングの片隅に部屋を与えられた留学生はこの標本を好きなように使って研究し論文を書きなさいという事であった。この標本群の中には神経細胞を明確にみることに出来る染色を発明したニッスルが作った歴史的な標本も保管されていた。ここで少し脱線して述べると、マックス・プランク精神医学研究所は精神医学における哲学的思索や精神的分析的アプローチを嫌ったクレペリンが神経病理学を精神医学の基礎とすべき学問として設立した研究所である。クレペリンはミュンヘン大学精神医学教室の主任教授の時に神経病理学者であるニッスルとアルツハイマーをこの研究所に招いた。アルツハイマーが発見した初老期痴呆症はクレペリンによりアルツハイマー病と命名されたのであった。さて、私の1年目は臨床神経病理学の研究という事で症例報告論文をドイツ語で2報仕上げ、さらに日本からの症例を英文で一報仕上げた。実は、このワーカホリックの生活の陰にはかなり

ミュンヘン時代の恩師



▲ Gerd Peters (1906-1987)



▲ Georg W. Kreutzberg (1932-)



▲ Parviz Mehraein (1931-2009)

強いプレッシャーが日本からかかっていた。それは恩師岐阜大学精神医学教室の難波益之教授からの2通の手紙である。はじめは、森岡外の「うたかたの記」とともにドイツ生活を十分に楽しむようにという文言の手紙であった。私はこの手紙を有難く思いすぐミュンヘン郊外にあるスタルンベ

ルグ湖に家族と共にドライブを楽しんだ。そして、その後受け取った手紙には帰国するまでに論文を最低3編は書いてくるようにと書かれていたのだ。「うたかたの記」の内容に少し触れると、この短編小説は森岡外がミュンヘンに滞在中に起こった事件をもとに書かれたものである。当時の

バイエルンで次々と城を作り浪費する王ルードヴィヒ二世の狂気の精神鑑定を依頼されたミュンヘン大学精神科教授グッデン博士がこの王と共にスタルンベルグ湖で溺死体となって発見された事件である。前述のニッスルやアルツハイマーはこのグッデン教授の弟子であった。

テレビに出る

医療法人 和楽会 なごやメンタルクリニック院長

原井 宏明

伯父がテレビに出て喜ぶ姪っ子

2014年はテレビでの露出が多い年でした。4月に「ニュース・エブリイ」で、6月に「ニュース・ゼロ」、そして、9月に情報バラエティー番組の「あのニュースで得する人損する人」に出演しました。すべて、強迫性障害の患者さんに対する行動療法についてです。

普通の人にはテレビを見る習慣があるでしょう。子どものころには「自分もいつかはテレビに出たい」と思っていたことがある方も多いいはず。そして、知り合いがテレビに映っていたら、録画したり、人に知らせたりしたくなるはず。私の姪っ子、小学5年生がそうです。お盆に里帰りしたとき、近くのプールに連れて行きました。人なつっこい子で、プールで初めて会った同じ年頃の小学生とその親に自分から声をかけ、一緒にビーチボール遊びを始めました。しばらくしてから、姪っ子曰く「ねえねえ、このおじさん(私の事)は、ママのお兄さんなんだけど、テレビに出たんだよ、お医者さんなんだ、凄いでしょ!」

他所の小学生とその親も「へー」と感心して、私に注目してくれました。私も「まあ、たいしたことでも」と謙遜します。でも、本当は、こっちは気が気ではありません。プールで何かあったとき、「お医者さんおられますか?」とアナウンスがあったりしたら?私に医師免許はありますが、人工呼吸・心臓マッサージは10年以上やっています。

一方で、自分のおじさんのことを自慢したいという姪っ子の気持ちもよく分かります。小学生にとっては「テレビに出る人イコール偉い人」でしょう。「おじさんは偉い人なんだよ、エヘン!」と思うのは、姪っ子にとって自然なことだし、そんな気持ちは私

にとっても嬉しいことです。

テレビに出るまで

「ニュース・エブリイ」のきつかけは、1月に日本テレビの報道部門のディレクターから送られてきたメールでした。強迫性障害についての報道を企画している、強迫性障害に悩む患者と家族の自助グループである「東京OCDの会」を取材したら、原井のことを教えられたということでした。患者さんと原井へのインタビューの他に、集団治療の治療の様子も取材したいとおっしゃいます。集団治療とは、強迫性障害に悩む患者さんたち、10人程度に集まっていただき、治療と一緒に行動療法を行うプログラムのことです。なごやメンタルクリニックで月1回、3日間連続で行っています。この治療で良くなった方の話を聞き、取材したいということでした。

取材に応じてくれそうな患者さんに声をかけ、また集団治療に参加される予定の方にはテレビ取材のことを伝えるようにしました。2月の集団治療の患者さんのOKを得て、その中で個人的な取材に応じてくれる患者さんの候補も何人か見つかりました。

2月の集団治療の時にディレクターがこられて、治療場面を撮影、そのあとに私がインタビューに応じました。このときの様子が4月と6月の放送になったわけですね。

「あのニュースで得する人損する人」の場合は、8月はじめに「極東テレビ」という会社から連絡がありました。会社名が怪しい。そして、エンタメ番組というのが私にとっても初めてでした。強迫性障害をエンタメにして良いのだろうかという気になってしまいます。放送された番組を見たあと、こちらの印象を伝えると、先方の返事は「担当する会社によって番組の色がガラッと変わるのが当番組の特徴でもあります」。

8月お盆明けに東京で極東テレビの担当者にお会いし、取材に協力してくれる患者さんを紹介、8月末に担当者が名古屋まで来て、私のインタビュー場面を撮影という進み方でした。立て込んだスケジュールでしたが、報道の場合と違って、放送の日取りも決まっているからでした。そして、テロップなどに流れる文章を作るとき、こちらの意見を聞いてくれました。実際には、私が最初に思っていたより、強迫性障害とその治療をきちんと扱っていただいた啓発的な番組になりました。

良くある質問

ギヤラは出るのか?

テレビに出れば出演料が出る?と思う方があるでしょう。今までの私の経験ではもらったことがありません。ニュースのような報道番組では、取材対象にお金を出すことはないようです。

取材にはどんな人が来るのか?

全国ネットのテレビ放送といえは構えた立派なチームが来ると思われるかもしれませんが。実際に来る人を見れば落差に驚きます。ジーンズ姿のカメラマンとディレクターを兼任した人が一人で来るだけです。その様子を見るだけでテレビの制作予算には余裕がなく、経費節約がなによりも優先していることがわかります。一度来られると時間無制限。8月にインタビューを受けたときには夕方から始まり、終わったのは日付が変わったときでした。テレビ局で働く人たちは24時間体制で働くのが普通で、時間を気にしていないようでした。

放送内容に取材対象の意見は反映されるのか

話すのは取材対象の私ですが、2、3時間ずつと話しつづけても、放送されるのはそのごく一部です。その一部を選ぶのはテレビ制作側です。

取捨選択にはこちらの意見は通りません。私やディレクター、制作会社側が「これを伝えたい」と思っても、それがテレビ局の編成上層部がOKしなければ、電波には乗りません。上層部がどう考えて、どう取捨選択するのか私には分かりませんし、そしてディレクターも推測するしかないようでした。

私の考えとテレビを作る側の考え

私の側からすると、強迫性障害は不潔恐怖だけではありません。「自分が人を傷つけないか」と考え、人の中に入ることを怖れる加害恐怖もあります。毛髪が薄くなった男性を通りで見かけただけで、「禿げと相手に言ってしまったのではないか」と考えて、自宅に引きこもってしまう方があります。「ふとそう思っただけなのに、自分が悪口を言ってしまったのではないか」と気になるのは、強迫性障害の症状なのですが、しばしば妄想のように受け取られて、統合失調症と診断されてしまう方があるのは、とても残念なこと。このような不潔恐怖以外の強迫性障害の方を取り上げたいとお願ひしたら、

テレビを見る人は飽きるとすぐにチャンネルを変えてしまう。異様な手洗いをしている様子なら、テレビを見ている人がその場面に釘づけになつてくれるが、じつと立ち止まって電気のスイッチを目で確認をしているような場面は、普通の人が見たら飽きる。従って、確認の患者さんを取り上げるのはNG

なるほど。「テレビに出れば、注目を浴びる」と取材される側は簡単に考えていますが、テレビの側は視聴者の注目を集めるための絵作りに必死なのです。考え込んでじつと立ち止まっているだけの加害恐怖に、人の注目を集めるためにはまた別の工

夫が必要だと思ひ知らされました。

テレビは役に立っているのか

日本テレビの方には申し訳ないのですが、今回の放送があるまで私は「ニュース・エブリイ」「ニュース・ゼロ」「あのニュースで得する人損する人」のいずれも見たことがなく、そういう番組があること自体を知りませんでした。一方、診察に来られた患者さんからの話を伺うと、1/3ぐらいの方はご覧になったようでした。今、改めて録画を見なおすと、ごくごく一般の方に強迫性障害を分かってもらうためにはよくできています。その中で行動療法、集団治療を紹介できたことはありがたいことでした。

加害恐怖以外にも、身体醜形障害や収集癖、皮膚摘み取り症など強迫関連の病気でまだ知られていない病気がたくさんあります。もし、一般への啓発を願うならば、私のほうももっと工夫が必要でしょう。

最後になりましたが、テレビの取材に応じて下さった患者さんにはとても感謝しています。



(原井宏明略歴)

一九五九年京都生まれ。一九八四年岐阜大学医学部卒業。神戸大学精神科、国立肥前療養所(現、肥前精神医療センター)、国立菊池病院臨床研究部長、なごやメンタルクリニック院長。日本行動療法学会認定専門行動療法士。動機づけ面接トレーナー。

機能性内科疾患と精神疾患

医療法人 和楽会 横浜クリニック院長 工藤 耕太郎

身体の病気でありながら、なかなか証拠の見つからなかった疾患群が最近知られるようになってきました。たとえば、胃食道逆流症は一昔前までは食道に炎症やびらんがみられる逆流性食道炎のみしか知られていませんでした。現在では、内視鏡で炎症やびらんがないように見えても、組織を観察すれば炎症が見つかることがわかってきたため、非粘膜びらん性胃食道逆流症という診断ができました。

この10年は多くの知られるようになってきました。これらの病態に関しては、すぐに精神的な問題とされ精神科や心療内科を初診することは、そう珍しいことではなくなっています。

「うつ病」、「不安障害」などの、未曾有の疾患喧伝が行われた結果、精神的不調を感じる患者さんが精神科や心療内科を受診するようになっていきます。ただ、ここで一つ振り返らなければいけない問題があります。ほとんど全ての内科疾患に罹患した患者さんは、「抑うつ、不安状態」を呈するのが当たり前という事実です。

身体的に問題があれば、抑うつや不安が出現するのは当たり前のことです。これから受診する患者さん、そして今受診している患者さんもそれを理解すること。そして、多くの精神科医がそれを理解することが、多くの患者さんの苦痛を減らす第一歩だと思っております。

起立性調節障害や血管迷走神経反射という病気も最近はどうな学生向けの教科書にも記載されるようになってきました。

しかし、身体疾患の除外を行ってから精神科の診断をつけるというのが、今から100年以上前に精神医学が内科から分離したころよりの伝統です。現在、広く用いられているアメリカ精神医学協会のDSMという診断基準も、目次を見れば明らかに身体疾患による精神症状から順に記されております。

証拠が単純な検査で見つからないから精神的、あるいは精神医学的な問題だとするのは、もはや今では時代遅れの考え方です。まず、身体から、これは精神医学の基本であり過去200年の伝統を守ったものです。

そして、一度、「抑うつ、不安状態」が惹起された場合、それが精神疾患によるものであれ身体疾患によるものであれ、認知療法を含めた心理療法は有効であると考えております。身体疾患によるものだからといって、精神科あるいは心療内科での治療が必要でないものと断じているわけではないことを、これを読まれた患者さんにご理解いただければ幸いです。

普通採血やレントゲンなどで見つからないが、身体に異常がある状態と

過去の20年に関しては、

「うつ病」、「不安障害」などの、未曾有の疾患喧伝が行われた結果、精神的不調を感じる患者さんが精神科や心療内科を受診するようになっていきます。

身体的に問題があれば、抑うつや不安が出現するのは当たり前のことです。これから受診する患者さん、そして今受診している患者さんもそれを理解すること。そして、多くの精神科医がそれを理解することが、多くの患者さんの苦痛を減らす第一歩だと思っております。

過去20年に関しては、

「うつ病」、「不安障害」などの、未曾有の疾患喧伝が行われた結果、精神的不調を感じる患者さんが精神科や心療内科を受診するようになっていきます。

身体的に問題があれば、抑うつや不安が出現するのは当たり前のことです。これから受診する患者さん、そして今受診している患者さんもそれを理解すること。そして、多くの精神科医がそれを理解することが、多くの患者さんの苦痛を減らす第一歩だと思っております。

身体的に問題があれば、抑うつや不安が出現するのは当たり前のことです。これから受診する患者さん、そして今受診している患者さんもそれを理解すること。そして、多くの精神科医がそれを理解することが、多くの患者さんの苦痛を減らす第一歩だと思っております。



＜工藤耕太郎略歴＞

- 【学歴】
 - 一九九六年三月 山梨医科大学医学部医学科卒業
 - 二〇〇二年三月 山梨医科大学医学部大学院博士課程生態系卒業
- 【職歴】
 - 一九九六年四月 山梨医科大学精神神経医学講座入局
 - 二〇〇二年二月 山梨医科大学精神神経医学講座助手
 - 二〇〇四年四月 国立精神・神経センター武蔵病院厚生技官
 - 二〇〇五年四月 東京大学精神神経科助手
 - 二〇〇六年三月 滋賀医科大学精神医学講座助手
 - 二〇〇七年五月 滋賀医科大学精神医学講座学内講師
 - 二〇〇八年より大学を離れ
 - 二〇一三年より現職

◆ドクターヨシダの一口コラム(44)◆ 伝え方で結果が変わる

医療法人和楽会 心療内科・神経科 赤坂クリニック院長

吉田 栄治

土曜日は月に数回、近郊の総合病
院に産業医としてメンタルヘルスケ
アの仕事に行っているのですが、車
で通勤していきまして、カーラジオを
聴きながら行くのが密かな楽しみに
なっています。なかに、今話題になっ
ている著者や各界で活躍する人が登
場するトーク番組があるので(木
村達也)ビジネスの森 8時15分
〜35分)、いつも面白く聴いていま
す。その番組で、しばらく前に「伝
え方が9割」という本の著者である

佐々木圭一さんがゲストで呼ばれ、
この本の紹介をしていました。なか
なか興味深いお話をしました。

佐々木さんはコミュニケーション
が昔から苦手で、理数系の大学に進
学して機械工学を勉強していたそう
ですが、コミュニケーションが上手
になりたいと思って広告会社に入社
したそうです。そうしたところ、何
の間違いか、こともあろうにコピー
ライターとして配属されてしまい、
大変苦労されたんだそうです。しか
し、そんな中からいろいろなるノウハ
ウを発見していき、今回の本を書く
きっかけになったとのことでした。
面白いなと思ったのは、「ノー」を
「イエス」に変える技術というお話で
す。3つのステップがあるというこ
とから話は始まりました。

まず第1のステップは「自分の頭
の中をそのままコトバにしない、頭
で思ったことをそのまま口にするの
はやめる」でした。普通であれば、
うまく自分の気持ちを相手に伝えら
れないという人は、率直に自分の気
持ちは表に出せるようになればいい
と思うのですが、そうではないとい

う逆説からお話が始まり、ほほうと
まず感じました。例えば、デートし
たいなと思っている相手がいたとし
て、直接「僕とデートしてください」と
と伝えたのでは、断られる確率が大
いわけです。

そこで第2のステップは「相手が
普段どんなことを考えているのか、
相手の頭の中を想像する」です。そ
のままこちらのお願いを伝えたとし
て相手がどう思うかを想像する、ま
た、相手は何が好きか?何がキライ
か?どんな性格か?わかりうる相手
の基本的な情報を思い出ししてみるの
だそうです。例えばここで「はじめ
てのものが好き」「食べ物はいタリ
アンが好物」という情報があったと
したら?

第3のステップは「相手のメリッ
トと一致するお願ひをつくる」です。
このデートの誘いの場合は、「驚く
ほどおいしいパスタの店があるんだ
けど、行かない?」となるんだそう
です。あえてデートという言葉は出
さないで、結果的には、このほうが
「イエス」の返事をもらえて、パスタ
の店にデートできる確率が格段に上
がりますよということですね。
何やら単にテクニク的な話に聞
こえるところもありますが、要は「真
撃に相手のメリットになることを考
えるということ」が大事なポイント
なんでしょうね。お願ひが自分のメ
リットにしかかかっていない時には、
なかなか相手は快く「イエス」とは
言ってくれないということです。そ
して相手のメリットを考えると、
これは、自己主張だけの自己表現で
はなく、「自分も相手も大切にした

自己表現」ということなんだろうな
と思います。

早速「伝え方が9割」というこの本
を買って読んでみましたら、この相
手のメリットを考えるという大事な
ポイントをつかむのに、いくつもの
切り口があることが紹介されていま
した。まずはここで述べました相手
の好きなことからお願ひをつくる
ということ。他には嫌いなこと回避
(芝生に入らないで)とこちらのメ
リットだけを主張するのではなく、
「芝生に入ると農薬の臭いにつきま
す」と掲示することで、芝生に入ら
ないようにしてもらうことが相手の
メリットになる)であるとか、選択
の自由(A案とB案がありますが、
どちらがよろしいですか?)と言
うことで、相手が自分で選ぶことが
できるというメリットに、認められ
たい欲に働きかける、あなた限定、
チームワーク化(子供に対して一方
的に勉強しなさい)ではなく、「いつ
しよに勉強しよう」と提案し、誰か
といっしょに何かをやりたいとい
う気持ちに働きかける)などがあつて、
そして最終手段にして最大の方法
は、相手への感謝ということでした
(感謝されるとい最大のメリット)。

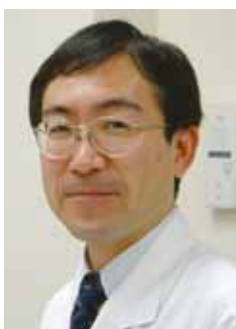
もっと詳しく見てみたいという方
は、どうぞこの本を読んでみてくだ
さい。第1章は著者がどのようにし
てこういった「伝え方の技術」を発見
していったかという長い前置きです
ので、ここは飛ばして、第2章の
「ノー」を「イエス」に変える技術から
読まれたらよいと思います。そして
第3章は、人を感動させる「強いコ
トバ」をつくる技術について書いて

あり、サブライズ法(驚いた時のコ
トバを入れる、「そうだ!」行こう)
であるとか、ギャップ法(正反対の
コトバを入れてギャップをつくる、
「は嫌になつても」は嫌になら
ないでください)などが紹介して
ありました。

考えてみますと、この伝え方を変
えてみましょうという助言は、診療
の中でしばしばやっています。例え
ば、亭主閑白なご主人で家のことを
何もやってくれないということでも
トレスをためてしまわれる奥さんが
時々おられます。大概、ご主人に不
満をぶつけて夫婦関係をさらに悪化
させてしまい体調を崩してしまうと
いう悪循環に陥る場合が多いです。
そういう場合、「ご主人に何か頼むと
きは父性本能をくすぐるように
(相手のメリットですね)してみま
しょう」と助言することがあります。
例えば少し甘いと感じて「今日は具
合が悪くて洗ひ物とかしてくれろと
助かるんだけどな」というように。
それでも頑固なご主人は、そうそう
簡単には手伝つてくれるものではあり
ませんから、そういう時は、いやな
顔をせずに「あなたも疲れているの
ね。それじゃしようがないわね、頑
張つてやるわ」とさつと身を引いて、
しおらしく洗ひ物をする。決して不
満をぶつけないで、そのアプローチ
を繰り返していく。そうするとご主
人の中に、ちよつとやってみよう
と大変かと思つてくれる気持ちがや
がて生まれて、手伝つてくれるよう
になる可能性がありますよと話して
います。そしてご主人が嫌々でも
やつてくれた時には大いに感謝す

る。不平たらたら文句しいしいとい
う場合も多く、大抵の方は、そんな
に嫌々手伝うんなら気分が悪いから
やらなくてもいい!と言つて怒つて
しまわれるのですが、そうすると元
の木阿弥ですから、嫌々でも手伝つ
てくれた時は、大いに感謝したほう
がいいです。「あなたも疲れていた
と思うけど、本当に助かったわ。本
当にあなたは頼りになるわ」くらい
に感謝するのがいいですね。

おつと、こんな記事を書いて、
うちの奥さんにもこれを実践されて
しまつと、私も家事手伝ひをいろい
ろとさせられることになつてしま
うそうです。まあそんなときは「今
日は具合が悪いようだったら、洗ひ
物は明日にすればいいよ」と相手の
身体を気遣いながら逃げてしまつと
いう手もありますが、今時は、「ダ
メよ、ダメダメ、今日洗ひなさいや
ダメ」と切り返されてしまいますか
ね。



〈吉田栄治略歴〉

一九五九年生まれ。
一九八四年防衛医科大学校医学部
医学科卒業。自衛隊中央病院第一
精神科、自衛隊岐阜病院精神科、
自衛隊仙台病院初代精神科部長を
経て、二〇〇三年九月より心療内
科・神経科 赤坂クリニック院長。

病(やまい)と詩(うた)【33】 — ウィリアム・S・クラーク先生(3) —

東京大学名誉教授

大井玄

札幌農学校の発足

クラークは明確な教育理念を持っていた。知識の獲得と同時に道徳心の涵養と身体を強壮にする体育が伴うべきだというものである。彼はそれをマサチューセッツ農科大学でも札幌農学校においても推し進めようとした。

彼の道徳心とは当然キリスト教に基づくから、耶蘇教嫌いの北海道開拓長官黒田清隆の了解を得なければならぬ。教育は知育、徳育、体育という三点セットでされるべきである。自分はクリスチャンであり教える倫理はキリスト教に依らねばならない、というクラークの主張を黒田は受け入れ、教育方針の一切を彼にゆだねた。そればかりか北海道開拓全般に関する彼の意欲的な提言を尊重し、取り入れている。彼の提示した計画は言うまでもなくマサチューセッツ農科大学の農場をモデルにしたものだった。いずれにせよ黒田のクラークに対する信任は非常なもので、クラークは妻への手

紙で黒田長官は絶えず自分に相談をもちかけ、いつもその忠告や助言に従ってくれる、と述べている。

身体の調子は上々、仕事に不足なく(中略)雇い主は理解があり、私の仕事を評価してくれ、実に事がうまくいっています。(中略)私は金で買えば大変な額になる地所をすっかり任され、日本のお役人の監督なしで、そこでの売買の権限を始め、使用人の人事権、建築や改築の権限、それに私のサインだけで会計から自由に支出させる権限が与えられているのです。

いまや彼はまったく自分の思い通りに仕事ができ、一緒に仕事する人たちは彼を尊敬してくれ、彼もその人たちを尊敬でき、マサチューセッツのように新聞を向こうに論争する必要はない。それに、彼の教える相手は、熱心で感受性に富み、才能豊か

でもしかも教師を心から敬愛する学生たちだった。 **徳育者としてのクラーク** 当初学生の総数は24名だった

イエス招き給う
み許にわれゆく

(讚美歌271番)

クラークは誓約を書かせるのが好きだったらしい。マサチューセッツ農科大学では、学生に服従の誓約を書かせようとして失敗している。幸い日本の学生はアメリカの青年よりはるかに従順だった。徳育の一環として禁酒禁煙の誓約を起草し自ら署名した。携行したワインを廃棄し、同行のアメリカ人教授二人にも署名させた。ちなみに彼らはマサチューセッツ大学の第一回生で、クラークの弟子だが、学生時代の彼らはストライキの際も、弁論大会出場辞退騒ぎのときも、学長が強圧的に要求した誓約署名を拒否している。

日本において彼が目指したキリスト教的道徳教育は、「イエスを信ずる者の誓約」として結実した。誓約書の内容は、当然、クラーク自身のキリスト教観を反映する。

聖書を神の唯一直接的啓示として認めること。創造主かつ支

配者であり最後の審判を行う永遠の神を信ずること。神を全身全霊をもって愛すること。悔い改め、神の子を信ずる者は罪の赦しを受けることなどはキリスト教の教理として当然の内容だが、「福音の招きに応ずること

を拒む者はその罪の中に滅び、主の御前から永遠に追放されるものであることを信ずる」など、福音主義色彩の濃い文言もある。

クラークは自分の目で学生たちがクリスチャンになるのを見ていない。彼の帰国後第一期生、二期生の有志が受洗し、約半数が棄教する。しかし残り1882年に札幌独立教会を設立する。内村鑑三はその一人だった。

後に北海道帝国大学総長になる佐藤昌介は、信仰でも長老格だった。誓約書は彼が保管し、署名を希望する者の頭に手をはべ英語で祝福をささげて署名させた。彼のクラークにあてた棄教者についての手紙は、その福音信仰がやはり純真だったのを

物語っている。

(前略)多くの激論の末、山田と佐藤勇と安田の三人が、もうキリスト教を信ずることができないから、誓約書から名前を消して欲しいと言ったのです。何と惨めな罪人よ。何と不幸な者たちよ。かかる暗黒に落ちるとはなんと哀れなことよ。彼らは罪と情欲とのゆえに死への道を選んだのです。(後略)

だが、同じころ十七歳の山田がクラークに送った棄教の説明は、やはり誠実で胸を打つ。

先生、私は一年間というものの、より良い人生を歩むべくキリスト教を信じようと熱心に勤めてまいりました。ところが、キリスト教を知れば知るほど、嫌になってくるのです。他の学生と違って、私の良心がキリスト教を素直に喜ぶことを許さないのですから、私はしばしば泣いてしまいました。そこで長い黙想のあとで、偽善の中に生きるよりは良いと思い、私はキリスト教を捨てる決心をしたのです。先生、私の悲しみは先生の

悲しみより大きいと思います。

というのは、先生の御親切を思いたすたびに私の心は痛み、何を食べても前のようにおいしく感じられないのですから。私はキリスト教を棄てましたが、私は私の身体が再び土に帰る日まで、先生の御親切を忘れないでいることを覚えていてください。将来いつか、できればキリスト教を信じたいと強く願っています。キリストの宗教は棄ても、キリストの教えの中には実に良い教えがあり、それを守っていききたいと思っています。

次号に続く



(大井 玄略歴)
一九三五年生まれ。
一九六三年東京大学医学部卒。
東京大学名誉教授。
元国立環境研究所所長。
臨床医の立場を維持しながら国際保健、地域医療、終末期医療にかかわってきた。



フクロウ博士の チョット一言

「苦悩の自覚は 悟りへ向かう力である」

今の自分はおかしいと気がついたとき、そうでない方向が見えてくるのです。迷いと悟り、生と死が対立的に見えてくるのです。さらに人間の愚かさがはっきりしてきて、仏の悟りの世界が魅力的に見えてくるのです。

すると、人間的視点を越えた視野が開けてきて、苦悩している自己を忘れ、対象としての仏も忘れ、生と死という比較も忘れた世界が開けてくるのです。

だから、物事には個性や違いはあるが、違いのままのそれぞれが真実で貴く輝いて見えてくるのです。

(中野東禅著 「日曜日の正法眼蔵」

東京堂出版 2012 より)

● 野鳥図鑑 ●



【オジロワシ】

冬の北海道へタンチョウの写真を撮りに行ったときのことである。阿寒町の給餌場では午後になると生きた魚を与えている。その魚を狙って数羽のオジロワシがやってきて、タンチョウとの間に獲物争奪合戦が始まった。

オジロワシは翼を広げると2mにもなる日本最大級の猛禽類であるが、タンチョウも負けじと反撃にでる。しばしの間、両者のバトルを楽しんだのである。

撮影 日本野鳥の会 岐阜代表 大塚之穂 ゆきとし